

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家(1ユニット)		
所在地	静岡県袋井市大野2730-4		
自己評価作成日	平成30年8月24日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600315-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として、御家族が関わるであろうことすべてのことを出来る限りご家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。そのためには、御家族の協力を得、相談、報告を密にするように心掛けています。また、理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き、押し付けや拘束の無い、自宅にいるような気持ちで生活が出来るように支援していきます。日々の介護の中で医療・認知症・接遇についてたくさん事を学び、それを知識として取り入れ利用者様と嬉しい事、悲しい事を共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し、地域の皆さんの福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の広がる中に建ち、近隣に住宅はまばらなものの、ボランティア訪問による地域住民との関わり合いが盛んです。「戸塚姉妹歌謡ショー」「羊の会」「泉陽中学」「大木歌謡ショー」「悠月会」「ふくでみらい」「浅羽南小ボランティアクラブ」と多様で、特に子どもとの異世代交流は利用者も気持ちが華やきます。例えば授業の一環として訪れる中学生は「よさこい節」「マジック」「一輪車演芸」を披露、利用者が思わず手拍子をとる様子もみられ、大いに刺激となっています。浴室の「ゆ」の暖簾は縫い物が得意な利用者の手によるものだとか、エピソード一つひとつに利用者主体の暮らしが垣間見え、安心感の湧く事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念 1. 自己決定の支援 1. 介護に学び介護を楽しむ 1. 地域の駆け込み寺になろう	地域の勉強会に足を運ぶ等、学ぶ意欲を持つ職員が居るのが強みであり、特にレクリエーション力に秀でていて、理念「介護に学び～」の実践にもつながっています。また「地域の駆け込み寺～」についても小さな相談にも応じていて、窓から自宅が見える利用者もいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校よりボランティア受入れや高校生のインターンシップ受入れを行っております。また、週に1回、地域包括主導で行われている近所の公民館で開催されている「しぞーか でんでん体操」に参加し、近隣住民の方に周知されている。	地域の体操教室には利用者6人、職員3人(各ユニット1名ずつ)を1グループとして週1回の参加が定番となり、松葉の家のスペースもとってもらえる嬉しい関係に発展し、会場では旧知の人との再会もあります。またコミュニティセンター祭りには作品展もおこなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活ボランティアの受け入れを行っていて地域住民の方に認知症の理解や支援を得ている。子供たちのボランティアを受け入れることで認知症の高齢者と接する機会を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で提案や指摘事項については職員に知らせ話し合いサービス向上に活かしている。	水防法一部改正に伴う防災計画のことや、インシデントレポート、職員配置にまで及んでいることが議事録から確認出来る一方で、「家族は話に加わっているのか…」とやや心配になりますが、「家族も真面目で積極的…」とのことで、充実した場であることが視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り事業所の実情やサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議に毎回出席くださる地域包括支援センターからは、傾聴や外出支援等介護に直結するボランティア拡大への助言とともに心強い言葉も挙がっています。現在利用者が大いに楽しみとしている公民館での体操教室も地域包括支援センターのアナウンスから始まっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合い正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	法改正に準じて「身体拘束適正化検討委員会」を発足させるとともに、年4回の会議運営を位置付け、すでに2回の会議を終えています。会議終了後には更に続けて職員会議を実施し、周知を重ねて丁寧に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられており職員は意識して虐待防止に努めている。また法人には関係部署への通報や取り調べのシステムはできている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人に必要性が生じた場合は制度活用に向けた関係機関への連絡、相談をしている。任意で加入している研究会などで制度に学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時にホームの特色などを含め契約内容の説明を十分に行っている。契約内容変更の時は事前に説明会などを行い理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度お便りとして配布させていただいている「松葉便り」では近況の報告とともに写真を取り入れ、カラー印刷することによりビジュアルで伝えることが出来ている。	請求書と併に家族に届けている「松葉の家だより」は写真が加わり、バージョンアップして家族に好評です。ボランティアの演芸、クリスマス会等行事にも招き、「花火大会」「三社囃子」「軽食」の三大特典がある納涼祭は特に賑わっていて、フレンドリーな関係につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要だと感じた際には随時、個人面談を行い、要望や提案を受けるようにしている。	月に1度ユニット会議、3ユニット全体の職員会議が3ヶ月に2回おこなわれ、また新しく始まった「身体拘束適正化検討委員会会議」では「もっと解りやすく」という職員意見から、周知事項として別紙にまとめるに至っていて、情報共有と理解に熱心です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当が与えられるなど意欲の向上が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研究機会をもうけたり、研修補助規定を設け各種の研修参加奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容を事業所の職員に報告している。また職員は勉強会研修会などを通して交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも何度か本人と会う機会をもうけ、本人の思いを聞き察し顔なじみになるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、聞き取りの段階で家族のこれまでの思いや今後の要望を聞き取り、また、来設時には声掛けをするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の主訴から今必要な支援は何かを見極めるようにしている。1回のデイサービスに出掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と一緒に家事などを行ったり、日課相談するなど暮らしを共にするものとして接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には家族とホーム側との双方で本人の支援をしていけるように行っているように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所付き合いの在った方の訪問を受けている。	階下にあるデイサービスから入所した人もいて馴染みの場所として遊びに行ったり、また氷川きよしファンの方はデイサービスのカラオケを愛用しています。家族には面会を「朝の7時～夜の20時までいつでもどうぞ」と案内しており、実際仕事帰りでの20時頃の来所もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを仲介する事で思いやり、出来る方が出来ない方のお手伝いをするようなことに対しては大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他施設に転居後も情報を提供したり面会をして励ますようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはホームに対する要望や生活への意向を聞きサービス計画に反映させている。また生活の中での利用者の真の思いを感じ取り日々の支援に当たっている。	来年百歳となる利用者をはじめ皆会話がしっかりとできていて、リビングでは利用者同士笑い合う場面も多々目に入ります。中には運動性の失語症のような症状をもつ利用者もいますが、職員の見聞きしたことを集積して想いを形にすることが日々重ねられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活の希望を把握しまた出来る事出来ないことを把握することに努めケアに連動させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報で把握に努めるが、入居直後からも本人の様子を観察把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一番有用な本人との話し合いと言う点ではなかなか把握しきれない事から実情としてあるが、日々の表情や言葉の中から察し把握するよう努め介護計画に反えさせている。	各ユニットに計画作成担当者を置き、サービス担当者会議には家族、管理者、介護支援専門員の他に、利用者の見守りの担当を交替しつつ3、4名の職員が出席して、本件への手厚さとともに家族との連携の堅固さが伝わります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子については介護記録介護経過申し送りノートに記入し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにとらわれず社会資源を含めた多種多様なサービスを今後の課題として取り組みたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近くにあるコンビニエンスストアに行き買い物をしたりまた地域の商店や公民館の行事など参加し社会の一員としての暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとなっている内科医、外科医、歯科への受診を支援している。受診結果は詳細に記録している。	27名中24名が協力医に変更し、月1回の定期通院には職員が付添い、従来のかかりつけ医と専門医の受診は家族にお願いして、家族が難しいという場合は実費での介助サービスを利用してもらっています。家族への報告は主に口頭でおこない、所内では書面で残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状の悪化など見られた場合は主治医に相談しまた家族への相談をし、早期の受診や検査を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し日頃の様子を病院側に報告し入院中には治療経過を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の進行に応じて主治医と家族とホームとの間で話し合いを持ち今後の方針や事業所で消えるケアを伝えながら決めて行き支援体制を整えていく。	普段から週1回看護師が常駐しているとともに医師も協力的です。重度化の過程で、家族の「ここで最期まで…」という気持ちの高まりに応え、「前向きに看取り加算もとって…」と職員の総意も固まったうえで、ここ2年で2名を見送っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講習に参加したり応急処置法に関しては看護師に教えを仰いだり実戦で役立てるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練実施日には地域住民の協力を得、避難誘導訓練を行っている。	法定訓練2回の内1回は消防署の職員が立ちあっていて、アドバイスを得ています。防災の日に合わせて実施ではサイレンとともに地域住民が30名程駆けつけ、マンツーマン対応で利用者と一緒に4階まであがる(津波想定)訓練が恒例となっています。	本事業所の27名とともに、階下にはデイサービスもあり、地域からの応援者も見込まれることから、備蓄の見直しと発電機保有の検討を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や性格を把握し一人ひとりのその人らしさを大切にその人に合った言葉遣い対応を心掛けている。	リビングに職員の声がかさず、利用者の話し声と笑いがある、「自己決定を支援しよう」との理念が浸透しています。職員は総じて黒子に徹していて、膳を下げる時「〇〇さん、下げてもいいですか」と優しいトーンで声をかける姿も垣間見ました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望又は不安の訴えにはしっかりと向き合い傾聴し、そのうえで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務は1日の内に行われればよいよ言う考え方をし、生活の主体は利用者であることを頭に入れて職員の都合ではなく本人の希望や訴えを優先するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	顔を洗い鏡の前で髪の毛をとく。前日から選んであった洋服を着る。キレイに着ているかよく見る。化粧をしている人もいる。一緒におしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りに参加できるよう誘導したり食事の支度に誘ったりして食事に関心を持ってもらえるように支援している。	揚げもの、生野菜、炒めもの、炊き込みと調理方法も多様に季節の食材を取り入れ、利用者も盛り付けや配膳を手伝っています。白寿のお祝いに職員からプレゼントされたクッションを背もたれに掛けて声の通りもよく、「いただきます」と号令をかける利用者の健啖ぶりも視認しました。	2階のユニットでは頻繁に手作りおやつがあるので、他の階も月1回から飛躍することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事摂取量をチェックし適量が確保できているか確認している。また、刻みやミキサー、とろみ等本人に合った食事形態を見極め対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方にはトイレが終わった際に、コールボタンを押してもらうように伝えており、コールとともに職員が駆けつけアコーディオンカーテンを引くようにしている。	トイレのドアはアコーディオンカーテンです。力のある人は開けやすい反面、力が出ない人はなかなか引くことができないため、「(終わったら)ナースコールを押してくれたらすぐ行きますよ」と声をかけて、安心して使えるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化などは主治医から説明を受けているため、見極めをしっかりとるように心掛けている。水分摂取量には気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴されていますが、行事がある時には次の日などに入浴できるよう支援しています。着替え選びから入浴後のケアまでお手伝いしています。	「ゆ」と赤い布を縫い込んだ立派な暖簾は利用者の力作です。入浴に気持ちが向くまでに時間のかかる人もいて最低限週2回としていますが、3回、4回と入る利用者もいて、大きな浴槽には仲良し3名で湯に浸かるという日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の日課などを把握し、ベッドの使用、布団の使用の選択は自由で、また慣れた寝具を持ち込んで頂き安眠を促すようにしている。日中はソファで横になる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への受診の際には薬についての説明を受け薬剤師には服薬時の注意事項等の説明を受けている。薬についての気付きや疑問には、その都度連絡をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事や好きな事を把握し、日々の生活の中で力を発揮してもらっている。散歩や買い物に出掛けたりなど気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けたり行事を通して季節感を感じられるよう支援をしている。	在宅の頃から散歩が日課という利用者を筆頭に外気浴や外歩きが活発におこなわれ、買い物を兼ねたミニドライブは小グループで順次出かけています。初詣、お花見、紅葉狩り、中学校(ボランティアで交流のある)の文化祭など年間で予定された外出企画もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理は職員が行っているが本人同行の買い物などではできる限り自分で支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用したい時随時使用できる。手紙は切手を買ってポストに入れるまで付き添い支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花を飾ったり日中の蛍光灯は転倒を工夫したりして刺激を軽減したり、壁など季節感がある飾りつけをしている。	次回行事の、運動会の告知はリアルな葡萄(パープル系の布を丸く縫い付けて玉とし、それをくくったもの)で飾られ、利用者のリレーションの豊かさも彩として加わったリビングには絵が壁に連なり、日頃のアクティビティのクオリティが感じられます。	毎日取組まない箇所の清掃の見直しをすることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たり設置してあるソファに座ったりゆったりと歓談できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物には制限は無く、本人が使い慣れたものや必要とするものを自由に持ち込むことが出来ている。	洗濯ばさみや目覚まし時計に暮らしが在ることが滲み、その人らしい住いに仕上がっています。入所以前から「絵を描くことが好き」な人の居室には絵筆立てに筆や色鉛筆が躍り、絵画の本が積まれ、よく面会に訪れるという娘さんが取り付けたガーランド風の作品展示が光っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の色々な場所には案内を掲げている。(トイレ、浴室、自室の入り口など)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家(2ユニット)		
所在地	静岡県袋井市大野2730-4		
自己評価作成日	平成30年8月24日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600315-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として、御家族が関わるであろうことすべてのことを出来る限りご家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。そのためには、御家族の協力を得、相談、報告を密にするように心掛けています。また、理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き、押し付けや拘束の無い、自宅にいるような気持ちで生活が出来るように支援していきます。日々の介護の中で医療・認知症・接遇についてたくさん事を学び、それを知識として取り入れ利用者様と嬉しい事、悲しい事を共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し、地域の皆さんの福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の広がる中に建ち、近隣に住宅はまばらなものの、ボランティア訪問による地域住民との関わり合いが盛んです。「戸塚姉妹歌謡ショー」「羊の会」「泉陽中学」「大木歌謡ショー」「悠月会」「ふくでみらい」「浅羽南小ボランティアクラブ」と多様で、特に子どもとの異世代交流は利用者も気持ちが華やきます。例えば授業の一環として訪れる中学生は「よさこい節」「マジック」「一輪車演芸」を披露、利用者が思わず手拍子をとる様子もみられ、大いに刺激となっています。浴室の「ゆ」の暖簾は縫い物が得意な利用者の手によるものだとか、エピソード一つひとつに利用者主体の暮らしが垣間見え、安心感の湧く事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自己決定の支援」「介護に学び介護を楽しむ」「地域の駆け込み寺になろう」		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方と一緒に、でんでん体操へ参加しています。散歩に出かけ近隣の方と顔なじみになって挨拶を交したり、野菜を頂いたりすることもあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の職場体験の受け入れに手認知症の方へ直接、肌で感じて頂いています。生活ボランティアの受け入れを行っており地域住民の方に認知症の理解や支援を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や提案、指摘事項については、職員に知らせ話し合いをしてサービス向上のために活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関しての相談や報告を通して市の担当者との関係を築いている。(ホームの事情や取り組みを報告し防災など、他の部署への橋渡しを担って頂いている。)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合いをし、正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全を守る為、施錠せず玄関は手動としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられている。職員は意識して虐待防止に努めている。また、法人には関係部署への通達や取り調べのシステムが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人の必要性が生じた場合は制度活用に向けて関係機関への連絡相談を行っている。また、任意での加入している研究などで制度を学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時にホームの特定など含め契約内容の説明を十分行っている。契約内容変更の時は、事前に説明会を行い理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度お便りとして配布させていただいている「松葉便り」では近況の報告とともに写真を取り入れ、カラー印刷することによりビジュアルで伝えることが出来ている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要だと感じた際には随時、個人面談を行い、要望や提案を受けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当が与えられるなど意欲向上が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けたり、研究補助規定を設け、各種研修参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容を事業所の職員に報告している。また、職員は勉強会、研修などを通して交流を図りサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何回か本人と会う機会をもうけ本人の思いを聞いたり察して顔なじみになるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時の聞き取りの段階で家族のこれまでの思いや今後の要望を聞き取り、また、来設時には近況を報告するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の主訴から今必要とされる支援は何かが必要か見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と一緒に家事を行ったり日課相談するなど暮らしを共にするものとして接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には家族とホーム側との双方で本人の支援をしていけるように伝え、場面場面で相談や報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所方の訪問を受けています。デイサービスなどで顔なじみの方の訪問も受けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを仲介する事で思いやりや会話が弾んで他の方を笑顔にさせてくれます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他の施設に転居後も情報を提供したり面会して励ますようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはホームに対する要望や生活への意向を聞き、サービス計画書に反映させている。また、生活の中で利用者の真の思いを感じ取り日々支援に当たっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活の希望を把握し、また、出来る事出来ない子をを把握することに努めケアに連動させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報で把握に努めるか、入居直後からも本人の様子を観察把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一番重要なのは本人との話し合いと言う点ではなかなか把握しきれないことが実情としてあるが日々表情や言葉の中から察し把握するよう努め介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子については、介護記録、介護経過、申し送りノートに記入して職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにとらわれず、会社資源を含めた多種多様なサービスを今後の課題として取り組みたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム近くにあるコンビニエンスストアに生きたい物をしたり地域の商店街や公民館の行事などに参加し社会の一員としての暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとなっている内科医、外科医、歯科医の受診を支援している。受診結果は詳細に記録している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状の悪化が見られたときは主治医に相談し、また、家族への相談を行い早期の受診や検査を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、日頃の様子を病院側に報告し、入院中には治療経過を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の進行に応じて主治医と家族の間で話し合を持ち今後の生活の方針や事業所でできるケアを伝えながら決めて行き支援体制を整えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講習に参加したり、応急処置法に関しては看護師に教えを仰いだりして実践に役立てるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域避難訓練実施日には地域住民の協力を得て、避難誘導訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や性格を把握し、一人ひとりその人らしさを大切にその人に合った言葉遣い対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、また不安の訴えにはしっかりと向き合い傾聴しそのうえで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務は一日の内にいけばよいという考えをし、生活の主体は利用者であることを頭に入れて職員の都合でなく本人の希望や訴えを優先するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来設があったり、外出時や入浴時の服選びを手伝うなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成日、食べたい物を聞き取りながら、食に関心をもってもらい食欲に繋がっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分および食事摂取量をチェックし、適量が確保されているか確認している。また、刻みミキサートロミなど本人に合った食事形態を見極め対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ずつ行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方にはトイレが終わった際に、コールボタンを押してもらうように伝えており、コールとともに職員が駆けつけアコーディオンカーテンを引くようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化等は主治医から説明を受けているため見極めをしっかりとるよう排尿排便表にチェックして毎日気をつけている。水分摂取量には気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水曜日と日曜日を除く午後に行われ、週2回の入浴だが本人の希望を取り入れている。気の合った人と楽しく入りたいという希望に応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の日課などを把握しベッド使用、布団使用の洗濯は自由でまた慣れた家具を持ち込んで頂き安眠を促すようにしている。日中はソファで傾眠されている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への受診の際には薬について説明を受け、薬剤師には服薬時の注意事項などの説明を受けている。薬についての気付きや疑問についてはその都度連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事や好きな事を把握し日々の生活の中で力を発揮して貰っている。散歩や他館へのお遣い同行や買い物に出掛け気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けたり行事を通して季節を感じられる支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理は職員が行っているが本人同行の買い物などでは出来る方には自分で支払う事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話はフリーに使用してもらっている。職員が取次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花を飾ったり、日中の蛍光灯の点灯を工夫し刺激を軽減したり壁など季節感が伝わる飾りつけをしている。利用者が書いた塗り絵を展示して自信に繋げている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たり設置してあるソファに座りゆったり歓談できるように工夫している。気の合った方と座れるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物には制限なく本人が使い慣れたものや必要とするものを自由に持ち込むことが出来ている。夫の位牌を拝み、毎日水を変えている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の色々な場所に案内をあげている。(トイレ、浴室、自室の入り口など)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家(3ユニット)		
所在地	静岡県袋井市大野2730-4		
自己評価作成日	平成30年8月24日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600315-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として、御家族が関わるであろうことすべてのことを出来る限りご家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。そのためには、御家族の協力を得、相談、報告を密にするように心掛けています。また、理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き、押し付けや拘束の無い、自宅にいるような気持ちで生活が出来るように支援していきます。日々の介護の中で医療・認知症・接遇についてたくさん事を学び、それを知識として取り入れ利用者様と嬉しい事、悲しい事を共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し、地域の皆さんの福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の広がる中に建ち、近隣に住宅はまばらなものの、ボランティア訪問による地域住民との関わり合いが盛んです。「戸塚姉妹歌謡ショー」「羊の会」「泉陽中学」「大木歌謡ショー」「悠月会」「ふくでみらい」「浅羽南小ボランティアクラブ」と多様で、特に子どもとの異世代交流は利用者も気持ちが華やぎます。例えば授業の一環として訪れる中学生は「よさこい節」「マジック」「一輪車演芸」を披露、利用者が思わず手拍子をとる様子もみられ、大いに刺激となります。浴室の「ゆ」の暖簾は縫い物が得意な利用者の手によるものだとか、エピソード一つひとつに利用者主体の暮らしが垣間見え、安心感の湧く事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の駆け込み寺になれるように介護につかれた方、困っている方等の逃げ場となるように実践し繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の祭り、コミュニティセンターへのでんでん体操参加等、地域との交流を日常的にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスと歩調を合わせ、ボランティアの受け入れ、小・中・高校の職業体験の場として活用。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	インシデント報告、事故報告等したり、意見交換などしサービス向上に活かしている。地震災害等の協力も呼び掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方にも(担当者)出席をお願いして毎回ホームの実情、取り組む報告、防災課等他の部署への連絡の橋渡しも担ってもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は近年様々な事件が起こり、利用者様の安全を守る為、1階玄関の自動ドアを手動とした。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられる。職員は個々に意識し行動している。他の講習参加も個々にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人に必要性が生じた場合は制度に向けて関係機関へ連絡、相談している。任意で加入している研究会などで学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階でホームの特色を含め契約内容の説明を十分に行い、また契約内容の変更の際には事前の説明等を行って理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度お便りとして配布させていただいている「松葉便り」では近況の報告とともに写真を取り入れ、カラー印刷することによりビジュアルで伝えることが出来ている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要だと感じた際には随時、個人面談を行い、要望や提案を受けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価、施設評価、達成手当等システムがあり個人及び施設の努力や実績が評価され賞与に反映される。(介護福祉士、初任者研修を取るなど)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修への参加を呼びかけたり、法人内の研修機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習などで顔なじみになったりして情報収集、ネットワークの構築をして新しい情報が入ってくるような環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何回か本人と会う機会をもうけ、本人の思いを聞き察し顔なじみになれるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の思いを入居相談の段階で入居を決しするに至るまでのきつもちを伺い、よりよいサービスが提供できるように御家族様の気持ちの拠り所となれるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の主訴から今必要な支援は何かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	工作、季節ごとの壁をどのようにしていくか。家事も一緒に取り組んだり大変な時苦手な物を作る時などお互いに支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来て頂ける環境にあり、入居の際、その後もその都度家族への協力も求め支援を提案。随時相談報告を行っていくよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用時の友人、家族にはいつでも会えるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプ、貼り絵、塗り絵、かるた取り、カラオケ等みんなで行っていることもある。ここで楽しめる方もいる。利用者様の仲介もし、声掛け見守りして孤立の無い支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設に転居後も情報提供する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の支援を理念に掲げて、居室でゆっくりされたい方は居室で横になったり自由な時間を過ごされている。起床時間、入床時間、入浴の意思等自己決定を促すよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には御家族の方、居宅介護支援のケアマネージャから情報提供して頂いたり、居宅へ伺う事で生活環境を把握するよう努めている。本人様と話し等の中からも探る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報で把握に努めるが、本人の様子を観察したり、話を傾聴、その人となりを察する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向、本人の意向のハッキリとある方達ばかりではないので、密に職員同士話し合ったり、その報告を家族に伝えたり本人にとってより良い暮らしのケアの作成をしている。何気ない会話の中から引き出せるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録などで日々の問題点を探ったり、カンファレンスを開き、情報の共有化を図ったり実践状況を見て介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず、外食、親交のある学校への訪問。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と近くの商店などに出掛け、好きな物を購入する楽しみが持てるよう支援。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター契約を結ぶ内科、外科、歯科には職員が受診支援、本人家族の不安、要望を主治医に伝え、適切な治療が行われている。受診結果はお便り、電話、面会などで報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な観点の気づきや心配事など書留、看護師に伝えて、指示を仰いだり、分からないことは説明して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの様子を伝え、入院先に足を運び担当看護師から情報を得ることで退院に向けた準備をしている。また相談員には入院の際にホーム利用者であることを伝え挨拶をする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を伺って主治医との連携を密にしながらかかりつけのケアを行っている。御家族様と職員とで何度も何回も話し合いによりより良い支援体制を整えさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講義参加。消防隊の講義参加。誰でも急変時の対応が出来る様に日頃から心構えをするよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練には、地域住民の協力を得て、避難訓練を行っている。職員全員が対応できるよう取り組んでいる。度の利用者様をどのように対応するのか事前に把握していく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり「その人らしさ」を大切に、曾於他人に会った言葉遣いを心掛けている。声のトーン、速さ、人それぞれの感じ方が違う為、職員其々注意し努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	顔の表情等、非言語を観察しながら本人の思いを尊重し日常生活において自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先するのではなく、利用者優先であることを認識し、本人ペースを大切に努め無理強いしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛をとかす時、衣類を選ぶとき、本人の思いを聞く。一緒に話し乍ら選ぶ。家族の協力の下、施設外の床屋に行く等(本人が行きたい時)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい物は温かくし提供。好みを取り入れている。準備、片付け、盛り付け一緒に行う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェック適量の確保できているか確認、刻み、トロミ、治療食等。本人一人ひとりの状態、習慣に応じた物の提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導し行っている。自分で出来ない方は職員が磨き直している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方にはトイレが終わった際に、コールボタンを押してもらうように伝えており、コールとともに職員が駆けつけアコーディオンカーテンを引くようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	はいべんが滞る悪影響を常に認識し、定期排便がある等気を配る。水分量の少ない方はチェック表で水分量を把握して水分摂取量の確保に対して工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月曜日から土曜日週2回の入浴が実施されている。行事等で土曜日に入れない時には日曜日に入浴されることもあります。日中14:00~15:30頃。夕方以降の入浴は職員の数により安全面での配慮から行っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず利用者様ペースで急速を取られているが、昼夜逆転等不眠に繋がらないよう精神面での安定化に心掛けている。今までの生活習慣に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師との連携により個々の処方される薬の情報を職員全員が把握している。何等かの変化が生じる場合、医師に相談等で安全に服薬して頂ける様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割を持って頂き、職員と関わり合いながら出来る事を活かし洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭き等快くやっていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の様子を見ながら散歩、外気浴を行っている。外食、花見などにも出かける。買い物に同行、家族との外出。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人で管理、使用できる方には使用の見守り、出来ない方には安心していただくようお願いしており、必要な時には使えることとお話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望の時には随時対応、手紙を送りたい時は一緒に切手を購入してポスト投函などをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、整理整頓に心掛け使いやすく安全に、共有の空間、特にトイレは清潔にしている。室温や湿度に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角にテレビ、ソファを設置し気の合う仲間と触れ合えるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や愛情ある物などを配置。ご自宅と同じような環境で生活して頂ける様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前、人形、目で見て確認できるようにしています。安全に過ごせるよう、動線を考えた家具の配置をしています。		